

1 これまでの経緯

<平成30年度>

- 外国人が多い新宿区・渋谷区において、大久保病院及び広尾病院に委託し、地域ごとの外国人患者の状況等を踏まえて、地域の医療機関間の連携や、医療機関と宿泊観光施設等、外国人が体調を崩した際の相談先となることが想定される施設との連携等に係る課題について整理
- 「宿泊施設等向け外国人患者対応マニュアル」（以下「マニュアル」という。）及び「外国語対応可能な医療機関リスト」（以下「リスト」という。）を作成

<令和元年度>

- 6月に、新宿区及び渋谷区の医療機関及び観光・宿泊施設等に、マニュアル及びリストの活用を依頼
- 9月に、マニュアル及びリストの活用状況についてアンケート調査等を実施（調査票は参考資料1、結果は資料4及び参考資料2を参照）
- 10月以降に、大久保病院及び広尾病院において、マニュアル及びリストについて効果検証を実施

2 実績報告

<大久保病院>

(1)会議開催実績

○医療機関連絡会議

日時 令和元年10月10日 19:00~20:00

○地域会議

日時 令和元年11月19日 18:00~19:30

(2)検討結果

①マニュアルについて

- 全般的に有用である
- 症状・病状説明のための指さしシートは、より多くの言語への対応も必要
英語の文字を大きくした方が良い
- マニュアルを活用した宿泊施設等向け研修等、周知が必要
- 民泊事業者にも参考になるのではないか
- 調剤薬局とドラッグストアでは取扱う薬が異なるので、注意喚起が必要

②リストについて

- 記載されている情報量が多く、紙での活用は難しい
- ひまわりの検索方法を紹介し、ひまわりのデータの活用を促す方が良い
- 対応時間や曜日、外国人患者の受入れ実績等が把握できると良い
- 外国人患者受入れに関する医療機関間の連携を円滑に進めるため、各医療機関における外国人患者受入れに関する連絡を受け付ける窓口・担当部署の記載があると良い

③その他

- ひまわりの医療機関詳細ページ内の「外国語の種類」の掲載箇所がわかりにくい

<広尾病院>

(1)会議開催実績

○地域会議

日時 令和元年12月23日 18:30~20:30

(2)検討結果

①マニュアルについて

- 全般的に有用であり、特に症状・病状説明のための指さしシートは有用
- t-薬局いんぷおは調剤薬局を検索できるので記載した方が良い
- マニュアルは地域の特性に応じて利用するツールの1つと考えるべき

②ヒアリングシート(渋谷版)について

- ※渋谷区ではマニュアル冊子とは別に1枚(両面)のヒアリングシート(参考資料3参照)を作成。表面に症状の箇所の図示・患者情報等について記載し、裏面に救急車の呼び方やひまわり・t-薬局いんぷお等を紹介
- ヒアリングシート(渋谷版)は実際に医療機関を案内する・救急車を呼ぶ際等の情報が1枚にまとまっており使いやすい
- マニュアルを事前の準備の際に利用し、ヒアリングシート(渋谷版)を活用するのはどうか
- ヒアリングシートはマニュアルと別刷りになっていると活用しやすい

③リストについて

- リストは情報量が多いと活用が難しいため、検索できる仕組みが必要
- 宿泊施設では、旅行者への案内は正確さが重要であるため、随時最新情報を確認できる仕組みが必要